

「ヒヤリ」の先には… (内地留学を終えて)

朝日町立さみさと小学校
教諭 水島 祐司

内地留学で、「学校の危機管理」について学ばせていただいた。

学校に様々な危機が存在することについては、いまさら述べるまでもないが、現場の教員がそれについてどれほどの意識をもっているかと言われれば、自戒の念も込め、決して高いとは言えないように感じていた。そこで、今回の研究テーマとした。

研究内容については紙幅の都合上多くは紹介できないので、ここでは1つのことに限って述べてみたい。学校で生じ得る危機は多岐にわたるが、今回は「学校事故」に重きを置いて研究を進めた。その中で何度も目にした言葉があった。「ハインリッヒの法則(1:29:300の法則)」である。「『重傷』以上の災害が1件あったら、その背後には、29件の『軽傷』を伴う災害が起り、300件もの『ヒヤリ・ハット』した(危うく大惨事になる)傷害のない災害が起きている。」というものである。自身のこれまでの実践に照らして見るにつけ、まさにハットとする経験則である。学校事故を予防するには、「ヒヤリ」をなくす必要があり、「ヒヤリ」をなくすためには、不安全行動や不安全状態をなくしていかなければならないということである。

今回、指導教員を引き受けて下さった上越教育大学の若井彌一教授からは「危機意識が薄いことが一番の危機である。とにかく一つでも多くの学校事故に関する判例を読みなさい。」と言われた。他校で起きた事故こそが一番の教訓になるのであり、決して「対岸の火事」にしてはならないと肝に銘じておきたい。

…教育センターからのお知らせ…

昨年度末には、町センター事業アンケートへのご協力をいただきありがとうございました。皆様からの貴重なご意見・ご要望を、次年度の事業計画に反映させていただきます。

2月24日(火)に行われた第2回朝日町教育センター運営委員会では、各委員から貴重なご意見をいただきました。ご意見を踏まえて、新年度の準備を進めていきたいと思っております。

<運営委員会より>

□ 研修事業について

- ・ 現地学習会は、初任者や初赴任者を対象とした地域理解というねらいで実施していた方向が変化してきているようである。「教材の発掘」「教師の地元再発見」など、ねらいを明確にして実施していくとよい。
- ・ 参加者が「やらされている」意識で研修に参加するのでは効果がない。自ら参加し、みんなで勉強しようという「参加型」の研修事業になるよう期待する。

□ 小中連携について

- ・ 20年度は、小中生徒指導研修会と小中高生徒指導連絡協議会を早めに実施したことで、情報モラル指導への取り組みを共通実践することに効果的だった。
- ・ センターが場を提供し、教師が自己研鑽に努め、小中連携をもっと広めて「9年間で朝日町の子供をどう育てていくか」というスタンスで児童生徒にかかわることが大切である。

□ 教育・安全情報のリアルタイム共有システムについて

- ・ 次年度から、不審者やクマ出没に関する情報をセンターがまとめて希望された各家庭にメール配信する準備を、各学校が整えていく。

◆ 学習指導要領の改訂にともなって、次年度の研修事業を見直しました。詳細は各校センター運営委員にお問い合わせください。